

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2016年 4月

「預言の霊」 「進歩する生涯」 「贖いの物語」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「預言の霊」

4

聖書の教え

朝のマナ

「進歩する生涯」

7

今日のわたしの生涯

現代の真理

「贖いの物語」

38

七つの封印と生ける神の印

力を得るための食事

「じゃがいもとにんじんのおかゆ」

44

お話コーナー

「宮で捧げられるイエスさま(下)」

46

イエスの物語

教会

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

FAX：0494-40-1045

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話：088-831-9535

【沖繩集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

アクセス

ホームページ：<http://www.4angels.jp>

メール：support@4angels.jp

発行日 2016年3月31日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Dreamstime on front cover;
HighRes on pages 8, 52, Joe Maniscalco
on back cover.

「朝がきます、夜もまたきます」

神の民は、熱烈な渴望を抱いて、来たるべき彼らの王のしるしを待望する。「今は夜のなんどきですか」と、夜回りが問われると、なんのためらいもなく「朝がきます、夜もまたきます」と答える（イザヤ書 21:11,12）。山頂の雲間に光がきらめいている。やがて、主の栄光があらわれる。義の太陽がまさに輝き出ようとしている。朝と夜がともに近づいている。それは、義人には、永遠の昼の開始であり、悪人には、永遠の夜の幕がおろされる。

祈りのうちに神と格闘している者たちが、神の前に嘆願していると、見えないものから彼らをさえぎっていた幕が、ほとんど除かれたように思われる。天は、永遠の日のあけぼのに輝き、「あなたがたの忠誠を保ち続けよ。援助は与えられる」と言う言葉が、天使の歌のメロディーのように耳に聞こえる。全能の勝利者であられるキリストは、ご自分の疲れた兵士たちに、永遠の栄光の冠をさし出される。そして、彼の声が、開かれた門から聞こえてくる。「見よ、わたしはあなたがたと共にいる。恐れてはならない。わたしは、あなたがたのすべての悲しみを知っている。わたしは、あなたがたの悲しみをになった。あなたがたが戦っている敵は、わたしがすでに戦った敵なのだ。わたしはあなたがたのために戦った。そして、あなたがたは、わたしの名によって、勝ち得て余りあるのである。」

尊い救い主は、われわれが助けを必要とするちょうどその時に、助けをお送りになる。天への道は、彼の足跡によって清められている。われわれの足を傷つけるとげは、どれも彼の足を傷つけたものである。われわれが負わせられる十字架は、すべて、われわれに先だって彼が負われたものである。主は、魂に平和をもたらすための準備として、争闘が臨むことを許されるのである。悩みの時は、神の民にとって恐ろしい試練である。しかしそれは、すべての忠実な信者にとって、上を見上げ、主をとりまく約束のじを信仰によって見る時である。（各時代の大争闘下巻 409, 410）

13章 預言の霊

キリストの昇天後、そして弟子たちが信仰と祈りを通して神に自らを完全に明け渡し、互いに完全な一致へと至った後に、聖霊が満ちみちて彼らの上に注がれました(ルカ 24:49; 使徒行伝 2:1-4)。霊的な賜物があるとき、教会の共通の益のために、また神のみ働きの前進のために彼らに委ねられました。初期のクリスチャンたちに授けられた御霊の賜物には、使徒職、知恵の言葉、知識の言葉、信仰、いやし、預言、霊を見わける力、奇跡、異言、異言を解く力、教え、務め、そして愛(行動における純粋で無我の愛)が含まれています(アモス 3:7; コリント第一 12:7-11, 28; エペソ 4:7, 8, 11; ペテロ第一 4:10, 11)。

教会に「最上の賜物を熱心に求めるよう」勧告しながら、使徒パウロは「より優れた」道一愛一を強調しています(コリント第一 12:31; 13:1-8, 13)。そのとき、彼は次のように加えました。「霊の賜物を、ことに預言することを、熱心に求めなさい」(コリント第一 14:1)。預言の確かな言葉はわたしたちの信仰の基礎です(箴言 29:18; ホセア 12:10, 13; 歴代志下 20:20; マタイ 10:41; テサロニケ第一 5:19-21; ペテロ第二 1:19-21)。

御霊の賜物は、イエスの再臨の前に、忠実な残りの民に回復されることになっています(コリント第一 1:7, 8)。

神のみ約束通り、預言の賜物はこの終わりの時代に真の教会に回復されました(ヨエル 2:28; 使徒行伝 2:14-21; 黙示録 12:17 (cf. 黙示録 19:10))。1844年の第二の大失望のすぐ後に、エレン・G・ホワイトは神より初期の再臨信徒たちの中で預言の務めに召されました。そして彼女の働きはイザヤ 8:20 とマタイ 7:16, 20 のテストにたえるものでした。

エレン・G・ホワイトの著書の主な目的は、なおざりにされてきた神のみ言葉へ男女を連れ戻すことであり、すでに聖書の中に明らかにされている真理を彼らの心に印象づけ、信徒たちがこれらの真理からさまよい出ないように守ることでした。

「神はその言葉の中で、『終わりの時に』幻を与えると約束された。それは信仰の新しい基準としてではなくて、神の民の慰めと、聖書の真理を離れて誤りに陥る人々を正すためである」(初代文集 160)。

「むかし、神は預言者や使徒たちの口によって人々に語られた。この時代には、ご自分のみ霊の証によって彼らに語られる。神がご自分の民に、ご自分のみ旨と彼らに進んで欲しいと望んでおられる道のりについて、今ほど熱心に指導された時はかつてなかった」(教会への証 4 巻 147)。

「主はご自分のみ言葉のなかで、富を持っている人々に対するご自分のみ旨を率直に表してこられた。しかし、このお方の直接的なご命令が軽視されてきたために、このお方は憐れみ深くも証を通して彼らの前にその危険を示しておられる。このお方は新しい光を与えておられるのではなく、すでにこのお方のみ言葉の中に明らかにされてきた光へ、彼らの注意を促しておられるのである」(同上 2 巻 660, 661)。

「もしあなたが、聖書の標準に達し、クリスチャンの完全を達成したいとの願いをもって、神のみ言葉をあなたの研究課題としてきたならば、あなたは証の書を必要とはしなかったことであろう。あなたが神の靈感を受けた言葉に精通することを怠ってきたがゆえに、神は単純で率直な証によってあなたの心を動かそうと、あなたが従うことを怠ってきた靈感の言葉にあなたの注意を引き、あなたの生活をその純潔で高尚な教えに従って形成するようにと訴えておられるのである。」(同上 2 巻 605)

「神のみ言葉は最も混乱した思いを啓発するのに十分であり、それを理解したいとの願いがいくらかでもあれば、だれでも理解することができる。しかし、それにもかかわらず、神のみ言葉を研究していると公言しながら、その率直な教えに真っ向から反対して生活している人がいる。そのため、男女に言い訳の余地を与えないために、神は率直で鋭い証を与え、彼らは従うことを怠ってきたみ言葉へ引き戻されるのである。」(同上 454, 455)

「預言の霊とまた証のシリーズはすべての安息日遵守者の家族に紹介されるべきである。そして兄弟たちはその価値を知り、それらを読むように強く勧められるべきである。」(同上 4 巻 390)

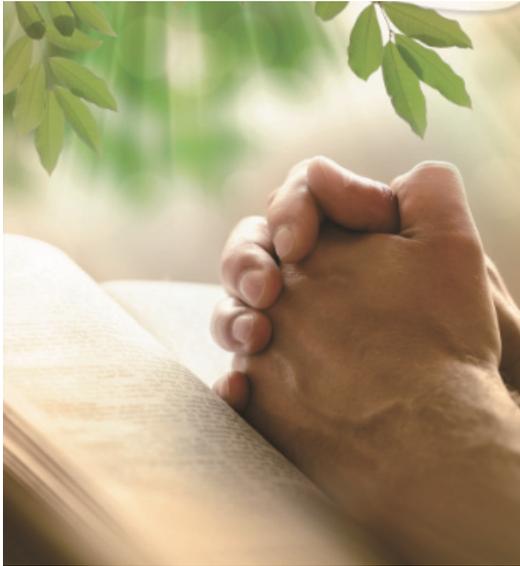
「神のみ言葉は誤ることのない標準である。証の書はみ言葉に代るべきではない。すべての信徒はこれらの問題を注意深く進めていくために、大いに配慮し、

そしていつも必要なだけ述べたところでやめるべきである。すべての人は自分たちの立場を聖書から立証し、自分たちが真理だと主張するすべての点を明らかにされた神のみ言葉から実証しなさい。」(伝道 256)

「サタンは、……絶えず偽物の中に押し込もうと—真理から誘い出そうと—している。サタンのいちばん最後の欺瞞は、神の御霊の証を無効にすることになるであろう。」(セレクテッド・メッセージ 1 巻 48)

今日のわたしの生涯

My Life Today



4月「進歩する生涯」

クリスチャンの進歩のはしご

「それだから、あなたがたは、力の限りをつくして、あなたがたの信仰に徳を加え、徳に知識を、知識に節制を、節制に忍耐を、忍耐に信心を、信心に兄弟愛を、兄弟愛に愛を加えなさい。これらのものがあなたがたに備わって、いよいよ豊かになるならば、わたしたちの主イエス・キリストを知る知識について、あなたがたは、怠る者、実を結ばない者となることはないであろう。」(ペテロ第二 1:5～8)

これらの言葉は教訓に満ちていて、勝利の基調をなす。使徒は、信者にクリスチャンの進歩のはしごを紹介しているが、そのひとつひとつの階段は神を知る知識の進歩をあらわし、このはしごを登るのに行き詰まりはない。信仰、徳、知識、節制、忍耐、信心、兄弟愛、愛は、はしごの階段である。この階段を一段一段登って、わたしたちに対するキリストの理想の高さに達するときに、わたしたちは救われるのである。こうしてキリストはわたしたちの知恵となり、義と聖とあがないとになられる。(患難から栄光へ下巻 230)

このときれることのない一步一步をすべて心の目の前において、あなたが歩み始めるときに、数え上げるのではなく、神の栄光にだけ目を向けて、イエスに目をしっかりと留めていれば、あなたは向上する。……

一步一步歩むことにより、最高にまで向上することができ、ついには山頂に達することができる。あなたが生涯にしなければならない働きの膨大な量に圧倒されないようにしなさい。なぜならそれを一度にすべてするようにと要求されてはいないのである。あなたの持つすべての能力を一日一日の働きにつき込み、それぞれの尊い機会を活用し、神があなたに与えて下さる助けを感謝して、進歩のはしごを一步一步登っていきなさい。あなたはその日一度に一日だけ生きるべきであることを覚えていなさい。神はあなたに一日を与えて下さったのであり、天の記録は、あなたがその特権と機会をどれほど評価したかを示すであろう。あなたが神の与えて下さった一日一日を向上していくことによって、ついには主が「良い忠実な僕よ、よくやった。」と仰せになる言葉を聞くことができるようにと祈る。(ユース・インストラクター 1893年1月5日)

あなたがたの信仰に徳を加え、徳に知識を

「いのちと信心とにかかわるすべてのことは、主イエスの神聖な力によって、わたしたちに与えられている。それは、ご自身の栄光と徳とによって、わたしたちを召されたかたを知る知識によるのである。」(ペテロ第二 1:3)

福音についての信仰を受け入れた後、わたしたちの最初の仕事は高潔で純潔な原則を加えようと努め、このようにして真の知識を受け入れるために心と思いを清めようと努めることである。(教会への証 1 巻 552)

使徒は、クリスチャン生涯において、絶えず向上することの大切さをわたしたちの前に示している。わたしたちが霊的な理解に欠けていることについては言い訳の余地はない。……

信仰は向上のはしごの一段目である。信仰がなくては、神に喜ばれることはできない。しかし多くの人はこの一段目で止まってしまい、それ以上登ろうとしない。彼らは自分がキリストを信仰すると公言し、自分の名前が教会の名簿にのると、自分の仕事は完結したと思っているように見える。信仰は不可欠である。しかし靈感の言葉は、「あなたがたの信仰に徳を加え」なさいと言っている。神の王国の中における永遠の命と住居を求めている人々は、自分の品性のために徳という土台を築かなければならない。イエスが隅のかしら石でなければならぬ。魂を汚すものは、思いと生活から消し去らねばならない。誘惑がくるときキリストの力強さのうちに抵抗しなければならぬ。魂が高潔に立つことができるまで、しみのない神の小羊の徳が品性の中に織り込まれなければならない。……ヨセフは、世の悪のただ中で、青年がどのようにしてしみなく立ち、自分たちの信仰に徳を加えることができるかという見本である。……

わたしたちの生活は一瞬一瞬極めて現実であり、厳粛な責任を負わせられている。霊的な理解と達成の欠如に対して、無知は言い訳とはならない。なぜならわたしたちは徳に知識を加えるようにと熱心に勧められているからである。……教養のなかった漁師は洗練され、能力のある人となった。そして彼らが学ぶ特権を得た教訓がわたしたちを訓告し、教えるために記されている。わたしたちはキリストの学校の生徒になるようにと招待されている。わたしたちは知識を可能な限りすべて得る必要がある。(ビュー・アンド・ハルド 1888 年 2 月 21 日)

節制に忍耐を加え

「だから、なんら欠点のない、完全な、でき上がった人となるように、その忍耐力を十分に働かせるがよい。」(ヤコブ 1:4)

「知識に節制を」。これは品性の完全に向かう道の第三段階である。至る所に放縱と不節制があり、その結果は退廃と墮落である。この地上の住民は、社会の不節制な習慣のゆえに、精神的にも道徳的にも肉体的にも下落しつつある。食欲と情欲、そして見せびらかしたい気持ちが多多数の人を乱行と浪費へと最大限度にまで引きずり込んでいる。……神の民は世とは反対の方向を取らなければならない。彼らは、これらの罪深い行動に対して戦い、食欲を否定し、下等な性質を服従させなければならない。……「聖書を調べ」、わたしたちの習慣を聖書の教えに調和させるようにするのはわたしたちのためである。……

「そして節制に忍耐を」。わたしたちがこの段階に上ろうとするとき、自制心のある者になる必要が明らかにされている。不節制な者が次の段階の忍耐強い者になるのは不可能である。(ビュー・アンド・ワルド 1888年2月21日)

わたしたちのうちのある人は神経質な気質であり、考えたり行動するにあたって本能的に火花のようにすばやい。しかし自分が忍耐強くなるのを学ぶことはできないと、誰も考えてはならない。忍耐は、注意深く養うなら、すみやかに成長する植物である。自分自身を完全に知ることによって、また神の恵みとわたしたちの分における堅い決心を結合させることによって、わたしたちは勝利者となり、すべてのことにおいて、完全になって欠けたところのない者になることができる。(ヒトリカ・スケッチ 134)

忍耐は、家庭生活の経験の中に平安と愛の香油を注ぐ。……忍耐は教会の中、家族の中、地域社会の中で一致を求める。この恵みがわたしたちの生活の中に織り込まれなければならない。(ビュー・アンド・ワルド 1888年2月21日)

信心に兄弟愛を、兄弟愛に愛を加えなさい

「しかし、神の人よ。……義と信心と信仰と愛と忍耐と柔和とを追い求めなさい。」
(テモテ第一 6:11)

もしわたしたちが信心の恵みを身に帯びたいのなら、天との密接な、また親しい交わりを持たなければならない。もしわたしたちがキリストのかたちを反映し、至高者の息子、娘であることを示したいなら、イエスはたしかにわたしたちの家庭の客であり、わたしたちの家族の一員でなければならない。宗教は家庭にあって美しいものである。もし主がわたしたちと共におられるなら、自分たちが天にあるキリストの家族の一員であることを感じるであろう。天使がわたしたちを見守っていることに気づき、わたしたちの態度は優しく、自制心のあるものとなるであろう。礼儀と信心を養うことによって、わたしたちは天の宮廷に入るのにふさわしくなるであろう。……

エノクは神と共に歩んだ。彼は生活のあらゆる事柄の中で神に榮譽を帰した。自分の家庭でまた仕事の上で、彼は「これは主に受け入れられるだろうか」と尋ねた。そして神を覚え、このお方の勧告に従うことによって、彼は品性を変えられ、彼の方法が主に喜ばれる、信心深い者となった。わたしたちは信心に兄弟愛を加えるようにと熱心に勧められている。ああ、わたしたちはこの階段をどれほど十分に踏む必要があり、自分たちの品性にこの資質をどれほどたくさん加える必要があることであろうか。……キリストがわたしたちに対して持つてくださっているその愛を、わたしたちは他の人に対して持つべきである。人は天におられる主によって、その真の価値を評価される。もし彼が地上の家庭の中で不親切なら、天にある家庭にはそぐわない。もし彼が、自分自身の方法を貫くなら、それが誰を悲しませるかにかかわりなく、天国で支配をすることができないかぎり、そこで満足はしないであろう。キリストの愛がわたしたちの心を支配しなければならない。……悔いなくおれた心で神を求めなさい。そうすれば、あなたは兄弟に対する思いやりで心が和らぐであろう。あなたは兄弟愛に、愛を加える準備ができる。……

それは天国をわたしたちに近づかせる。この働きをすることによって、わたしたちはかぐわしい平安と神の慰めを持つことができる。これらの階段がわたしたちを天の雰囲気の中に入れる。(ビュー・アソッド・ヘルド 1888年2月21日)

神の恵みはわたしのため

「しかし、神の恵みによって、わたしは今日あるを得ているのである。そして、わたしに賜った神の恵みはむだにならず、むしろ、わたしは彼らの中のだれよりも多く働いてきた。しかしそれは、わたし自身ではなく、わたしと共にあった神の恵みである。」(コリント第一 15:10)

クリスチャンの進歩のはしごを登ろうとしている人々がいる。しかし、彼らは、上に進んで行くにしたがって、人間の力に頼りはじめ、やがて、信仰の創始者であり完成者であられるイエスを見失ってしまう。結果は失敗である。つまり、これまでに得たものをすべて失ってしまうのである。途中で疲れてしまって、これまで彼らが心と生活の中で育ててきたクリスチャンの恵みを、魂の敵に盗ませている人々の状態は、まことに嘆かわしい。(患難から栄光へ下巻 232,233)

魂の内にある神の愛は生活に直接感化力があり、知性と愛情は活発に、また健全に働くようになる。神の子はキリストの義が着せられ、このお方の生命を与える力でささえられるまで満足して休むことをしない。彼が自分の品性にある弱点に気づくと、それを繰り返し告白するだけでは十分ではない。彼は品性におけるそれと正反対の特性を築きあげることによって、自分の欠点に打ち勝つ決心をし、そのための働きを力強くしなければならない。彼はこの働きが難しいからといって避けたりはしない。クリスチャンには疲れを知らない活力が要求されている。しかし彼は自分自身の力で働かざるを得ないのではない。神の力が彼の求めを待っている。自己に打ち勝とうとまじめに苦闘している者はみな、「わたしの恵みはあなたに対して十分である」というみ約束を自分のものとするのである。

信仰の祈りに伴った個人的な努力を通して魂は訓練される。毎日に品性はキリストに似た者へと成長する。……長い間培ってきた習慣に打ち勝つには厳しい戦いを要するであろうが、わたしたちはキリストの恵みを通して勝利することができるのである。……

もしわたしたちが神の御霊の促しに忠実であるなら、わたしたちは恵みから恵みへ、栄光から栄光へと、不死という仕上げの一筆を受けるまで進んで行くのである。(レビュー・アンド・ワルド 1884年6月10日)

神の恵みの絶大な富

「しかるに、あわれみに富む神は、わたしたちを愛して下さったその大きな愛をもって、罪過によって死んでいたわたしたちを、キリストと共に生かし……キリスト・イエスにあつて、共によみがえらせ、共に天上で座につかせて下さったのである。それは、キリスト・イエスにあつてわたしたちに賜わった慈愛による神の恵みの絶大な富を、きたるべき世々に示すためであった。」(エペソ 2:4-7)

わたしたちが墮落していなかったなら、この「恵み」という言葉の意味を学ぶことは決してなかったであろう。神はご自分の奉仕にたずさわり、ご自分の命令すべてに従順な罪のない天使たちを愛しておられるが、彼らに恵みをお与えになることはない。この天使たちは恵みについては何も知らない。彼らは一度も罪を犯したことがないのでそれを必要としないのである。恵みとは、それを受けるに価しない人間に示された神の特性である。わたしたちがそれを求めたのではなく、恵みの方がわたしたちを捜して送られたのである。神はこの恵みを飢え求めるすべての者に与えることを喜ばれる。それはわたしたちに価値があるからではなく、まったく価値がないからである。わたしたちの必要こそ、この賜物をわたしたちが受けるという保証をわたしたちに与える資格である。

しかし神は、ご自分の律法を無効にしたり、律法にとって代るものとするためにこの恵みを用いられることはない。「主はご自分の義のために喜ばれる。このお方は律法を大いなるものとし、ほまれあるものとされる。」この方の律法は真理である。……

神の恵みとその王国の律法は完全に調和し、手をたずさえて歩む。神の恵みはわたしたちが信仰によってこのお方に引き寄せられるのを可能にする。この恵みを受けることによって、またこの恵みを自分たちの生活の中で働かせることによって、わたしたちは律法の正当性を証し、律法を高め、その生きている原則を実行することによって律法を名誉あるものとする。……

わたしたちはどのようにして神のために証をすることができるだろうか。……神の律法に対する、純潔な全心全霊を込めた従順によってである。わたしたちの内に神がご自身をあらわそうとしておられるのをそのまましていただくなら、わたしたちは全宇宙と、神の律法を無効にしている背教した世界の前で、贖いの力に対する証人となるのである。(手紙 98 b、1896年)

わたしたちをキリストに似た者にすることのできる力、わたしたちを不動の者とし、不変の者とするところまで力がある。それは神の律法への服従を通してわたしたちのところに神の恵みである。(同上 58、1909年)

恵みによって成長しなければならない

「そして、わたしたちの主また救主イエス・キリストの恵みと知識とにおいて、ますます豊かになりなさい。」(ペテロ第二 3:18)

人はみな天が備えた恵みという財産をすべて活かし、神のみ働きにおいてますます有能になるようにとこのお方は要求しておられる。クリスチャンの敬神、純潔そして愛が絶えず増してゆくようにとすべての備えがなされており、それによってその人のタラントが倍増し、神なる主への奉仕において、その人の能力が増すためである。しかし、この備えがなされていても、イエスを信じると公言する多くの人が生活と品性に、真理の聖化させる力を証する成長を見せていない。わたしたちがはじめて自分の心にイエスを受け入れるとき、わたしたちは宗教的に赤ん坊である。しかしわたしたちはいつまでも宗教経験で赤ん坊のままであってはならない。わたしたちの主なる救い主イエス・キリストの恵みと知識に成長すべきである。わたしたちはこのお方の内にある男女の完全な高さにまで到達すべきである。わたしたちは神とこのお方がつかわされたイエス・キリストを知ることにより、信頼、確信、愛に成長し、信仰を通して新しく豊かな経験を得るために前進すべきである。(ユース・インストラクター 1893年6月8日)

清くないものから清いものに変える働きは継続的なものである。毎日神は人の聖化のために働いて下さる。だから人は神に協力して、辛抱強く、正しい習慣を養う努力をしなければならない。人は恵みに恵みを加えなければならない。こうして寄せ算で働くとき、神は彼のために掛け算で働いて下さる。わたしたちの救い主は、悔いる心を持つ者の祈りを聞き、それに答える準備がいつでもできておられる。そして恵みと平安が、忠実な者たちの上に増し加えられるのである。主は、彼らを悩ます悪との戦いに必要な祝福を、喜んで彼らに与えて下さる。……信仰によってクリスチャン完成の高みへ進んでいるとき、信者の前途にある希望は、なんと輝かしいものであろう。(患難から栄光へ下巻 232、233)

恵みによる成長は家庭で始まる

「主は恵みと誉とを与え、直く歩む者に良い物を拒まれることはありません。」(詩篇 84:11)

家庭で宗教を養うのに失敗するために、恵みに成長しない人がたくさんいる。(サインズ・オブ・タイムズ 1904年2月17日)

家族一人一人がキリストから受けた力を持ちつづけていることを示すべきである。クリスチャンであるということが何を意味しているかをたえず心に留めていることを示すことによって、あらゆる習慣と実践の中で向上していかなければならない。(原稿 140、1897年)

家庭の中でクリスチャンである人は、教会や世間の中でもクリスチャンである。(サインズ・オブ・タイムズ 1904年2月17日)

真理の尊い種を受けいれる準備が常にできている心の中にだけ、恵みは成長することができる。罪のいばらは、どの土地にでも育つのである。それは耕さなくてもよい。しかし、恵みは、注意深くつちかわれなければならない。とげやいばらは、いつでもすぐにはえてくるものであるから、清めの働きは絶えず進めていかなければならない。(キリストの実物教訓 27, 28)

家庭の中で品性を麗しくするものは、天の住居でも品性を麗しくする。(サインズ・オブ・タイムズ 1892年11月14日)。もしあなたが……世の光になるとすれば、その光はあなたの家庭内で輝かなければならない。あなたは家庭の中でクリスチャンの恵みの良い例となり、魅力的で忍耐深く、親切でしかも堅固であるべきである。……あなたは絶えず思いと魂に対する最高の教養を求める必要がある。……神のへりくだった子供としてキリストの学校で学びなさい。教訓と実践を通して家庭でこの上なく完全に徹底的な働きをすることができるように、絶えずあなたの力を向上させるよう努めなさい。……天来の恵みという光にあなたの品性を照らしてもらいなさい。そうすれば家庭内に陽光があるであろう。(レビュー・アンド・ワールド 1891年9月15日)

あなたのキリスト教信仰の尺度はあなたの家庭生活における品性によって計られる。キリストの恵みは、これを持つ者が、家庭を平安と安息に満ちた幸福な場所にするのを可能にする。(サインズ・オブ・タイムズ 1892年11月14日)

いかに恵みのうちに成長するか

「神はあなたがたにあらゆる恵みを豊かに与え、あなたがたを常にすべてのことに満ち足らせ、すべての良いわざに富ませる力のあるかたなのである。『彼は貧しい人たちに散らして与えた。その義は永遠に続くであろう』と書いてあるとおりである。」
(コリント第二 9:8, 9)

多くの人が恵みのうちに成長することを切望している。彼らはこのことについて祈るが、自分の祈りが応えられないので驚く。主人であるお方は彼らに、それによって成長するよう働きを与えておられる。働く必要がある時に祈るというのはどういう意味があるだろうか。質問は、「彼らはキリストがそのために死なれた魂を救おうと努めているだろうか」である。霊的な成長は、神があなたに与えてくださった光を他の人々に分け与えることにかかっている。あなたは家庭内で、教会で、近所で、良いこと、良いことだけを行うための活動的な働きに、あなたの最高の考えを発揮しなければならない。

あなたが恵みのうちに成長していないという思いで不安が増していく代りに、ただ示される義務をすべて行い、あなたの心に魂の重荷を負い、あらゆる方法を用いて、失われた者を救うために努めなさい。親切で礼儀正しく思いやり深くありなさい。祝福された望みについて謙遜に語り、イエスの愛について話しなさい。イエスの優しさ、その憐れみ、またこのお方の義について話しなさい。そしてあなたが成長しているかどうかについて思いわずらうのを止めなさい。植物はどのような意識的な努力を通して成長はしない。……植物はその成長について絶えず心配することによってではなく、ただ神の管理のもとで成長するのである。(ユース・インストラクター- 1898年2月3日)

恵みに成長する唯一の方法は、キリストがわたしたちにするようにと命じておられるその働きを、関心をもって行うこと、すなわちわたしたちが与えることのできる助けを必要としている人々を助け、祝福するために、自分の能力の限界まで関心をもって携わることによる。……絶えずまじめに、熱心に、熱烈に、愛のうちに成長しているクリスチャンは、すなわちそのようなクリスチャンは決して逆戻りすることはない。……彼らの知恵は増し、働く方法における能力も増す。彼らは最も大きな計画を悟っているように思える。彼らは最も奮起させる企画に携わる準備ができており、怠惰でいる余地はなく、ぼんやりとする場所を見つけようともしない。(同上 1887年6月7日)

恵みという宝はまったく無制限である。(手紙 78、1893年)

クリスチャンの道は天国に導く

「正しい者の道は、夜明けの光のようだ、いよいよ輝きを増して真昼となる。」(箴言 4:18)

青年はキリストから日毎に恵みを受けることができ、彼らが聖潔の道に従うとき、自分たちの光がいよいよ輝きを増すのに気づく。……

恵みのうちに成長すると、あなたは自尊心や自信、また自慢するようになると導かれるのではなく、あなた自身が無に等しいものであり、主に完全に依存している者であることにますます気づいていく。恵みにより成長している人は、福音の備えの完全さについてはっきりと認識しつつ、天の方へ向かってたえず進んでいく。

青年はキリストにあつて自由になることができる。闇の子ではなく光の子になることができる。神は若い男女すべてに悪い習慣を止め、仕事に精を出し、霊に燃え、主に仕えるようにと呼びかけておられる。イエスは、あなたが怠惰ではなく、自分の不正な行為を正し、自分の行いを向上させる努力をしていくよう助けて下さる。あなたの祈りの誠実さは、神のすべての戒めに従おうとする努力の生命力によって実証される。あなたは聡明に行動することができ、主がその御霊の力によってあなたの心を回復して下さることを信じつつ、悪い習慣や交際を一步步ずつ止めていくことができる。……

自分の品性の欠点を言い訳しないで、キリストの恵みによってそれらに打ち勝ちなさい。神のみ言葉が責める悪い情欲と格闘しなさい。なぜなら、この情欲に負けるとあなたは自分の品位を落とすからである。恵み深いお方の優しい声があなたを招いている間に罪を悔い改めなさい。それがあなたのできる最も気高い働きの第一歩だからである。神があなたに与えてくださったすべての力を用いて克服するために努力しなさい。(ユース・インストラクター 1892年8月15日)

義の道は力から力へ、恵みから恵みへ、そして栄光から栄光へと前進する道である。神の明るい光は、わたしたちの前進に調和してますます明るくなり、わたしたちの前にある責任と緊急事態に備えて、わたしたちを資格のある者とするために、ますます輝きを増す。(ビュー・アンド・ワールド 1886年6月22日)

神よ、もっと高い水準へ上がるために 助けて下さい!

「神よ、わたしの叫びを聞いてください。わたしの祈に耳を傾けてください。わが心のくずおれるとき、わたしは地のはてからあなたに呼ばわれます。わたしを導いてわたしの及びがたいほどの高い岩にのぼらせてください。あなたはわたしの避け所、敵に対する堅固なやぐらです。」(詩篇 61:1～3)

あなたは鷹が臆病な鳩を追いかけるのを見たことがあるだろうか。鷹にとつては自分の獲物をつかみとるためには、獲物よりも高いところを飛ばなければならないことを本能は鳩に教えている。だから鳩は、優勢な立場を得ようとしている鷹に追われて、天空高く高く上っていく。しかし無理である。鳩は自分が飛び続けるか地上へ降りるのを何者にも邪魔させないかぎり安全である。しかし、一度でもためらったり、低く飛んだりすると、見張っている敵は獲物めがけて飛びかかる。わたしたちはこの光景を何度も何度も、ほとんど息もつかせぬほどの関心をもって、小さな鳩に心から同情しながら眺めた。残酷な鷹のえじぎとして倒れる鳩を見ると、どれほど悲しいことだろうか。

わたしたちの前には戦い、すなわちサタンとその魅力的な誘惑との生涯続く争闘がある。敵は魂を混乱させるためにあらゆる議論や惑わしを用いるので、生命の冠を勝ち取るためにわたしたちは熱心でたゆまない努力をしなければならない。わたしたちは自分たちの贖い主のうちにあつて勝利を得るまで武具を脱いだり、戦場を去ってはならない。

わたしたちが、信仰の創始者であり、完成者であるお方に目を据えつづけているかぎり、安全である。しかしわたしたちの愛情は地上のものではなく上にあるものに置いていなければならない。わたしたちは信仰によって、キリストの徳を獲得するために高く、もっと高くのぼらなければならない。キリストの計り知れない魅力を日毎に熟考することによって、わたしたちはこのお方の栄光に満ちたかたちへとますます成長しなければならない。わたしたちがこのように天との交わりの中で生活するかぎり、サタンがわたしたちに網をかけようとしても無駄である。(ユース・インストラクター 1898年5月12日)

知恵のはじめ

「主を恐れることは知恵のもとである、聖なる者を知ることは、悟りである。」(箴言 9:10)

キリストは世が知った最高の教師であった。このお方は、人に天から直接の知識をもってこられた。このお方がわたしたちに与えてくださった教訓は、わたしたちにとって現世と来世の両方に必要なものである。このお方は人生の真の目的とわたしたちがそれをどのようにして手に入れることができるかを、わたしたちの前に置かれる。

キリストの学校では、生徒は卒業することはない。生徒の中には年配の者も若者もいる。天来の教師の教えに聞き従う人々はたえず知恵、精錬、魂の気高さが増していき、このようにして永遠に続くより高い学校に入る準備ができる。

無限に知恵あるお方は、人生についての偉大な教訓、すなわち義務と幸福についての教訓をわたしたちの前におかれる。この教訓は、しばしば学ぶのが困難であるが、これなくして真に向上することはできない。そのために多大の努力と涙、また激しい苦痛さえ伴うかもしれないが、わたしたちはたじろいだり、疲れたりしてはならない。わたしたちはついには「子よ、もっと高く上がってきなさい」と呼びかける主なるお方のみ声を聞くようになる。……

創造主が人の子らに授けられたあらゆる能力と特質をこのお方の栄光のために用いなければならない。そしてこのために用いるとき、それらは最も純潔に、聖潔に、幸福に働くのである。宗教の原則が最高位を占めているなら、知識の獲得や知性の修養においてなされる一步一步の前進は人間と神、有限な者と無限のお方の同化へと向かう一歩である。(両親、教師、生徒への勧告 50-52)

もしも青年が天来の教師についての学びだけをするなら……主を畏れることは本当に知恵のはじめであることを自分自身のために知るであろう。このように確かな土台をすえることにより、彼らは……あらゆる特権と機会を最高に活用し、知性におけるどのような高さにもまでも到達することができる。(ユース・インストラクター 1903年11月24日)

知恵は生命を与える

「知恵はこれを持つ者に生命を保たせる (与える)。」(伝道の書 7:12)

救いの道を指し示しているので、聖書はより高くより良い人生へとわたしたちを導く案内書である。(サイン・オブ・タイムズ 1906年6月13日)

神のみ言葉から離れ、靈感を受けていない人間の書物を受け入れることにより、思いは成長を妨げられ、品位を落とし、永遠の真理の深くて広い原則との接触がなくなる。……

すべての教師や両親の働きは、子供たちや青年の思いを靈感のみ言葉の広大な真理にしっかりと固定することでなければならない。これが現世と来世のために不可欠な教育である。そしてこれが科学の勉強を妨げたり、教育の標準を低くする原因になると考えないようにしよう。神についての知識は天と同じ位高く、宇宙と同じくらい広い。わたしたちの永遠の生命に関する遠大なテーマを研究することほど、思いを気高くし、活気づけるものはない。青年に、神が与えて下さったこれらの真理をしっかりとつかむ努力をさせなさい。そうすれば彼らの思いは努力に応じて広がり、力強く成長するであろう。み言葉を行う者である生徒はみな、思想のより広大な分野に連れて行かれ、不滅の知識という富を自分のために確保するであろう。(サイン・オブ・タイムズ 1906年6月6日)

神のみ言葉の中にだけわたしたちは創造についての信頼できる記述を見出す。……このみ言葉の中にだけわたしたちは人間の偏見や自尊心によって泥を塗られていない人類の歴史を見出すことができる。……ここでわたしたちは父祖や預言者との交わりを保つことができ、永遠なるお方が人々と語られるときそのみ声を聞くことができる。ここでわたしたちは、天の至高者がわたしたちの身代り、また保証人となるために自らを低くし、闇の勢力に一人で対抗して、わたしたちのために勝利を得るために自らを低くされたそのお方を見つめる。これらの主題について敬虔に熟考すると、心は必ず和らげられ、純潔にまた気高くなり、同時に思いに新しい力と活力が吹き込まれる。(健康 8、1882年)

いかに知識を得るか

「もし知識を呼び求め、悟りを得ようと、あなたの声をあげ、銀を求めるように、これを求め、かくれた宝を尋ねるように、これを尋ねるならば、あなたは、主を恐れることを悟り、神を知ることができるようになる。」(箴言 2:3-5)

だれも自分にはこれ以上得るべき知識はないと思わないようにしなさい。人間の知識の深さは計ることができるし、人間の著者の作品は精通することができるかもしれない。しかし想像力を最も高く、最も深く、また最も広く働かせても神を見出すことはできない。わたしたちに悟ることのできるすべてを越えた無限がある。わたしたちは神の栄光と、知識と知恵の無限の広がりをはんのかすかに見ているだけである。わたしたちは、いわば鉱脈の表面で働いているのであり、豊かな金の鉱石は下の方にあつて、それを求めて掘る者に報いがあるのである。縦坑を鉱脈の中へ深く深くさし込まなければならない。そうすれば光り輝く宝が得られる。神の知識は正しい信仰を通して人間の知識となる。

キリストの御霊にあつて聖書を探り調べる者はだれでも報いられる。人が小さい子供のように教えを受ける気持ちがあり、キリストにまったく屈服するとき、彼はこのお方のみ言葉の中に真理を見出す。もしも人々が従順であるなら、神の統治についての計画を理解する。天国は探求する者のためにその恵みと栄光の宝を開くであろう。人間は現在とはまったく違ったものとなる。なぜなら、真理の鉱脈を探求することによって、人は気高くなるからである。贖いの神秘、キリストの受肉、このお方の贖罪の犠牲がわたしたちの思いの中に、現在のようにぼんやりしたものではなくなるであろう。これらのことがより良く理解できるだけではなく、はるかに高く正しく評価され、感謝されるであろう。……

神とキリストについての経験による知識は人を神のかたちに変える。この知識は、人があらゆる衝動や情欲を……より高い精神力の支配のもとに置くようにと、自分自身を統御する力をその人に与える。またこの知識を持つ者を神の子、天の相続人にし、その人を無限のお方の思いとの交わりに入れ、彼に宇宙の豊かな宝を開く。(サイン・オブ・タイムズ 1906年9月12日)

確かな知恵と慎みとを守って

「わが子よ、確かな知恵と、慎みとを守(りなさい)。……それはあなたの魂の命となりあなたの首の飾りとなる。こうして、あなたは安らかに自分の道を行き、あなたの足はつまずくことがない。」(箴言 3:21-23)

わたしたちは働きを成功させる方法をキリストから学ぶために、小さい子供のようにこのお方の足元に座るべきである。わたしたちは神に、健全な判断力と他の人に分け与えるための光を求めなければならない。経験の実である知識が必要である。わたしたちは現世の事柄と霊的な事柄における知識を増やさないで一日が過ぎてゆくままにすべきではない。わたしたちは登ろうとする高さに近づくために、打った杭を抜いてさらにその向こうへ打とうと思わないような杭は一本も打ってはならない。最高の教育は日毎に向上するために思いを訓練することの中に見出されるべきである。一日の終りに、その日の歩みが勝利者の報いに少し近づいたことが自分に分らなければならない。日毎にわたしたちの理解力が円熟するべきであり、現世と来世における豊かな報いをもたらす結果を実現しなければならない。自分自身で行ったことではなく、日タイエスを見つめることにより、わたしたちは霊的な知識同様、現世の知識についてもはっきりと向上する。

万物の終りが近づいている。計画を立てて、それにどれ位の期間がかかるかを定めてはならない。わたしたちの救いの将は「前進せよ。夜が来る。するとだれも働けなくなる」と言われる。わたしたちは絶えず有用性を増していくべきである。わたしたちの生涯は常にキリストのみ力のもとにならなければならない。わたしたちの明りは明るく燃え続けているべきである。……

各時代において神は人間に神聖な啓示を与えてこられた。そうすることによって神が人の思いに恵みの教理を順次開いていくという目的を成就することができるためであった。真理を分け与えるこのお方の方法は、「主はあしたの光のように必ず現れいで」というみ言葉に示されている。神が啓発することのできる場所に自分の身を置く者は、夜明けのほの暗さから真昼の輝きにまで向上する。(サインズ・オブ・タイムズ 1906年9月12日)

わたしの働きのための知恵

「これに神の霊を満たして、知恵と悟りと知識と諸種の工作に長ぜしめ」(出エジプト 31:3)

わたしたちは、知恵を求めて、何も地の果てまで行く必要はない。神は、そば近くにおられる。……神は、あなたが信仰によって、神にたよることを望んでおられる。神は、あなたが、神に大きなことを期待することを望んでおられるのである。神は、霊的のものと同様に、この世のものに対する理解をも与えようと望んでおられる。神は、知性を鋭敏にすることがおできになる。また、手腕と技巧とを与えることがおできになる。あなたの才能を大いに働かせて、神に知恵を祈り求めなさい。そうすれば、知恵は与えられるであろう。(キリストの実物教訓 125)

自分の意志をたえず無限のお方の意志に明け渡して、神の教えと導きに身をゆだねているすべての人にとっては、霊的事柄について常に成長し続けるという約束がある。神は、あらゆる霊的な知恵と理解力とをもって、神のみ旨を深く知っている人々の向上に制限を設けることはなさらない。(レビュー・アンド・ヘラルド 1906年10月4日)

神を自分たちの能力とする人々は自分自身の弱さに気づくので、主はご自分の知恵を彼らに補充してくださる。彼らは日毎に神に寄り頼み、へりくだって、真心から、この上なく誠実に神のみ旨を行うので、知識と能力が増す。喜んで服従することにより、彼らは神に敬神の念を示し、神をあがめ、神から名誉を受ける。(同上 1906年2月22日)

主は心砕けた魂の祈りを常に聞く準備をしておられるという事実が、ダニエルの実例によってわたしたちに示されているので、わたしたちが心から主を求めるとき、このお方はわたしたちの嘆願に答えてくださる。ここにダニエルが彼の技能と理解力をどこで得たかがあらわされており、もしわたしたちが神にだけ知恵を請い求めるなら、天から力と増し加わる能力によって祝福していただくことができる。(手紙 59、1896年)

わたしの会話によって示される知恵

「あなたがたのうちで、知恵があり物わかりのよい人は、だれであるか。その人は、知恵にかなう柔和な行いをしていることを、よい生活によって示すがよい。」(ヤコブ 3:13)

矛盾しない行動はどれほど多くの罪を防ぐことであろうか。どれほど多くの魂を不正な道から義の道へと向かわせることであろうか。秩序のある生活と信心深い会話によって神の民は、神が自分たちに与えて下さった偉大な真理の力を証明すべきである。……

自分を賢いと考える人々と、傷つけたり破壊するために自分の力を使わない人に神が知恵を授けて下さった人々の間には相違がある。人は感じのよい言葉を語るかもしれないが、その生活が良い働きを表さなければ彼の知恵は人間の知恵である。本物の知恵は優しさと憐れみと愛に満ちている。人間が知恵と呼ぶ世的な方針は神が愚かと呼ばれるものである。教会にいる多くの人がこの人間の知恵で満足しているために霊的破産をしている。彼らは知識を得、知識を正しく用いる機会を失っている。なぜなら、神のために成功する商人となるため、すなわち、自分に委ねられた商品を賢く売買することのできる人となるためにはキリストの能力が不可欠であることに彼らは気づいていないからである。彼らは天の商品を自分自身に補充するのに失敗したので、商売における在庫品の価値は絶えず目減りしている。

知識を持つだけでは十分ではない。知識を正しく用いる能力を持たなければならない。神はわたしたちにあらゆる粗雑なまた空しい言葉の無い、良い会話をするようにと呼びかけておられる。空しい言葉、厳しい命令の言葉を口に出さないようにしなさい。そのような言葉は争いを生じるからである。その代りに光や知識や情報を与える言葉、回復する言葉、建設的な言葉を語りなさい。人は、自分に与えられた働きをしようとしている人々、また勇気づけを必要としている人々の魂に、美しい調べを生み出すために、言葉のタラントを用いることによって、真の知恵があることを示す。(手紙 40、1901年)

心が純潔であるとき、知恵の豊かな宝があふれる。(レヴィ・アト・ハルト
1898年5月17日)

自然、神のみ言葉の宝庫を開くかぎ

「神のくすしきみわざを考えよ。……知識の全き者のくすしきみわざを。」(ヨブ 37:14-16)

自然界全体が神の事柄の解説者となるよう設計されている。エデンに住んでいたアダムとエバにとって、自然は神聖な教訓に満ちた、神についての知識に満ちあふれていた。彼らの注意深い耳にとって自然は知恵の声を伴った声であった。知恵は目に語りかけ、心に受け入れられた。なぜなら二人は神が創造された作品の中で神と交わっていたからである。……自然界の中で神は、ご自分のみ言葉の宝庫を開く鍵を人の子らの手に置かれた。目に見えないものが目に見えるもので説明されている。すなわち神の知恵、永遠の真理、無限の恵みが、神が造られたものによって理解されるのである。(両親、教師、生徒への勧告 186 - 187)

エデンの父祖たちが自然の書物から学び、モーセがアラビアの平原と山々に神の筆跡をみとめ、イエスがナザレの丘に少年時代をすごされたように、今日の子供たちも、このお方について学ぶことができる。……そびえ立つ森の木から岩についているこけにいたるまで、あるいはまた果てしない大洋から、波うちぎわのごく小さな貝がらにいたるまで、地上のあらゆるものの上に、神のみかたちと上書きをみることができる。(教育 105)

ここに、思いは探り出すことによって強められるという神秘がある。……ピロードのような緑のじゅうたん地上をおおっている草の若芽や草木と草花、……高くそびえる山々、堅い岩々、……夜を美しくするために天にちりばめられている貴重な光の宝石、また疲れを知らない豊かな陽光、月の荘厳な輝き、冬の冷たさ、夏の暑さ、変化しつつ繰り返される季節、これらが完全な秩序と調和を保って、無限の力で支配されていることを研究するために、すべての人は主題を見出すことができる。ここには深い思想を必要とし、想像力を伸ばす必要のある主題がある。(教会への証 4 巻 581)

神はわたしのタラントを増やされる

「良い忠実な僕よ、よくやった。あなたはわずかなものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。」(マタイ 25:21)

神はご自分のために用いるようにとわたしたちにタラントを与えておられる。このお方はある者には五タラントを、別の者には二タラントを、そして他の者には一タラントをお与えになる。一タラントだけ持っている者が、その一タラントを神から隠そうと考えるようにしよう。主はそれがどこに隠されているか知っており、それがご自分のために何もしていないことを知っておられる。主が来られるとき、「わたしがあなたに委ねたタラントで何をしたのか」と、このお方はご自分の僕に問われる。そして五タラントを受け取った者と二タラントを受け取った者が、商売をして、自分たちのタラントを倍にしたことを主に報告するとき、主は彼らに、「良い忠実な僕よ、よくやった。あなたはわずかなものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。……主の喜びに入りなさい」と仰せになる。主は自分に貸し与えられた一タラントを活用した者にもこのように仰せになる。……

一タラントしか持っていない人に、「正しく使い、また活用された一タラントは、主に100タラントをもたらすということあなたは知っているだろうか」とわたしは問いたい。「どのようにして」とあなたは尋ねる。神が自分にとってどのようなお方であるか、また、自分が神にとってどのような者であるべきかに気づく知的な一人の人の改心にあなたの賜物を用いなさい。その人が自分を主の側におくようにさせなさい。そしてその人が光を他の人々に分け与えるとき、彼は主に多くの魂を連れていく手段となるであろう。一タラントを正しく用いることによって、100の魂が真理を受け入れるかもしれない。「よくやった」という言葉は、最大限にタラントを持っている人ではなく、主のために自分に与えられた賜物を忠実に、また誠実に用いる人に語られるのである。……

この世でなすべき大きな働きがあり、わたしたちは自分の道に輝くあらゆる光に対して責任がある。その光を分け与えなさい。そうすればあなたは分け与えるべき光をもっとたくさん受けるであろう。自分のタラントを正しく用いる者には大いなる祝福がくる。(世界総会冊子 1901年4月23日)

言葉のタラント

「いつも塩で味つけられた、やさしい言葉を使いなさい。そうすれば、ひとりびとりに対してどう答えるべきか、わかるであろう。」(コロサイ 4:6)

声はゆだねられたタラントであり、わたしたちの同胞を助け、励まし、近づけるために用いるべきである。もし両親が神を愛し、正義と公正を行なうために主の方法を守るなら、彼らの言葉は健全で純潔な、また品性を啓発するものとなるであろう。家庭にしようとして外国にしようとして、彼らの言葉はよく選ばれているであろう。(原稿 36、1894年)

声を訓練する最上の学校は家庭生活である。いらいらしないで、柔らかい声、明瞭でわかりやすい声を培うためにあらゆる方法で研究しなさい。……母親は家庭の中で優しく愛情に満ちた言葉を通して、キリストのようにふるまうべきである。(手紙 75、1898年)

ことばの力を正しく修練して用いることは、クリスチャン活動のあらゆる面に関係がある。これは、家庭生活の中にも、人との交際のどの場合にも必要なものである。わたしたちは、快い音声で話し、まちがいのない正しいことばを用い、親切で礼儀にかなったことばを使うようにしなければならない。やさしい親切なことばは、魂にとって、露のようなもの、静かに降る雨のようなものである。聖書にも、キリストには、「気品がそのくちびるに注がれて」いたから「疲れた者を言葉をもって助けること」がおできであったとされる。また、「いつも……やさしい言葉を使いなさい」「聞いている者の益になるようにしなさい」と主はお命じになるのである。……わたしたちも、キリストの模範に従って善を行なうならば、人びとがキリストに心を開いたように、わたしたちにも心を開くのである。

無作法な態度で話すのではなくて、神の愛から生じた気転を働かせることによって、「万人にぬきんで」「ことごとく麗しい」救い主のことを彼らに語るができる。これこそ、ことばのタラントを最高に用いる方法である。(キリストの実物教訓 311 - 314)

正しい言葉と行動は説き勧められるすべての説教よりも善のために最も力強い影響力がある。(ユース・インストラクター 1903年1月1日)

時というタラント

「そこで、あなたがたの歩きかたによく注意して、賢くない者のようではなく、賢い者のように歩き、今の時を生かして用いなさい。今は悪い時代なのである。」(エペソ 5:15,16)

神は人にタラントをお与えになるが、これらのタラントは、使わないで放っておかれたり、自分を満足させるために用いられるのではなく、他の人々を祝福するために用いることができるためである。神はご自分の栄光を増し進めるという目的のために時という賜物を人にお与えになる。この時が利己的な快樂に使われるとき、そのように費やされた時間は永遠に失われてしまう。(両親、教師、生徒への勧告 354)

わたしたちの時、神に属するものである。一瞬、一瞬が神のものである。そして、わたしたちには、その時を神の栄光のために活用するように、きわめて厳粛な責任が負わせられている。神がお与えになった賜物のなかで、わたしたちの時間ほどに厳密な説明が求められるものは他にないのである。

時の貴重なことは、実に想像以上である。キリストは、一分一秒を貴重なものとみなされたが、わたしたちもそう思わなければならない。人の一生は、むだにすぐすには、あまりにも短い。永遠のために備えをすべき恵みの日は、ほんのわずかしかない。……

人類家族は、死ぬころになってからはじめて、真に生き始めるようなものである。もし永遠の命に関する真の知識を得るのでないならば、この世の絶え間ない労苦も無に終わってしまう。働きをする時間として、時を尊重する者だけが、永遠の命とその住居とにはいるにふさわしいものである。その人は、この世に生まれたかいかがあったといえるのである。……

人生は非常に厳粛であるから、一時的な地上の物に心を奪われたり、永遠に重大性をもった物と比べるならば、全く取るに足らない小さい事のために絶えず心を煩わされてはならない。とはいうものの、神は、この人生の一時的な事からの中であって、神に奉仕するように、わたしたちを召されたのである。この世の仕事を勤勉にすることは礼拝と同様に、真の宗教の一部である。聖書は、怠惰であってよいとは言っていない。怠惰は、この世界の最大ののろいとなっている。真に悔い改めた男女は、すべて勤勉に働く者となるのである。(キリストの実物教訓 317-319)

一瞬一瞬が永遠の結果を負っている。(ユース・インストラクター 1898年6月30日)

金銭というタラント

「少ししかまかない者は、少ししか刈り取らず、豊かにまく者は、豊かに刈り取ることになる。各自は惜しむ心からでなく、また、しいられてでもなく、自ら心で決めたとおりにすべきである。神は喜んで施す人を愛して下さるのである。」(コリント第二 9:6, 7)

タラントのたとえの中にわたしたちは二種類の人々を見る。一種類の人々は勤勉な僕として、もう一方は怠惰でよしまな僕としてあらわされている。彼らはどちらも主の金銭を委ねられた。一人は、他の人々が祝福され、益を受ける方法で、委ねられた賜物を用いようと機会を求めながら、熱意をもって働きに行った。彼は単に自分を喜ばせたり、利己的な欲望を満足させたり、あたかもこれが人生の目的であるかのように自分の肉欲を満足させるために、快楽的なパーティや娯楽の場で楽しむために生きるのではなく、まじめに熟考し、自分の宗教生活が短いことを覚えている。(ユース・インストラクター-1893年6月8日)

富を得る力を人に与えるのは神であり、このお方は、人が自己を満足させるものとしてではなく、神のものを、このお方に返すものとして、この能力を与えておられる。この目的で財産を得るのは罪ではない。金銭は労働によって手にすべきである。青年はみな勤勉の習慣を身につけるよう訓練されなければならない。人が正直に自分の富を得ているなら、金持ちであっても聖書はだれをも責めない。……もしわたしたちが富を主のものとして認識し、感謝して受け、感謝して与え主に帰すべきであるとみなすなら、その富は祝福であることが証明される。(教会への証 6巻 452, 453)

金銭は、大いなる善をすることができるから、大きな価値がある。それが神の子供たちの手にあれば、貧しい人の食事、かわいた人の水、裸の人の着物となり、圧迫されている人びとの防御となり、病人を助ける手段にもなる。金銭は、困っている人びとを助け、他を祝福し、キリストの働きを前進させるために用いてこそ、価値があるのであって、もしそうでないならば、金銭は砂と同様でなんの価値もないのである。(キリストの実物教訓 327)

力はタラントである

「知恵ある者は強い。しかり、知識ある人は力を増す。」(箴言 24:5 英語訳)

わたしたちは、心をつくし、思いをつくし、精神をつくして神を愛するだけでなく、力をつくして愛さなければならない。これは身体の能力を十分に知的に活用することである。……

キリストはまたソロモンの神殿の建設のときの設計書をお与えになった。この地上の生涯でナザレの村の大工として働かれたお方は、ご自分の名があがめられるべき神殿を設計なさった天の建築家であった。……

すべての正しい発明と改良は、驚くべき計画を立て、すぐれたわざをなせる神からきたものである。医者や巧みな手の働き、また医者が神経や筋肉を支配する力、あるいは巧みな体の諸器官に関する知識などは、苦しむ者を救うために用いるように与えられた神の力の知恵である。大工が金づちを用いる巧みさ、かじ屋が金床を鳴らす力などは、神から来る。神は人びとにタラントをおゆだねになって、人びとが神の指示を仰ぐことを期待される。……

聖書の宗教は、わたしたちのすべての行為とことばのなかに織り込まなければならない。……この二つの力は、機械業や、農業、または商業や科学的事業などのあらゆる人間の職業において結合されなければならない。……神のみ旨を行なうことは、礼拝に参列する場合と同様に、家を建てるときにも必要なことである。……

ダニエルの実例は、わたしたちに良い教訓を教えている。彼は厳密な調査を受けても執務上の欠点やあやまちは、何一つなかった。ダニエルは、あらゆる実業に従事する者のよい模範である。ダニエルの生涯は人間がもし、頭脳、骨、筋肉、心、命の力を神の奉仕にささげるならば、何をすることができるかを示したのである。(キリストの実物教訓 324-326)

神はわたしに善を行う力を与えて下さる

「善を行う者は神から出た者である。」(ヨハネ第三 11)

青年が神から委ねられたタラントを高利に運用し、神のみ事業を進展させるために自分自身を楽しませるのではなく、神に栄光を帰すために用いることのできる多くの方法がある。天におられる至高者、栄光の王は人類を高め、気高くするためにこの世に來られ、無限の犠牲を払われた。……「彼は良い働きをしながら巡回されました」と記されている。……

このお方はすべての者がよい働きをすることのできるぶどう畑を持っておられる。苦しんでいる人々が至る所で助けを必要としている。生徒たちはおりにかなった言葉を語り、肉体労働の助けさえも必要としている人々のために親切な行為をすることによって、心に届くことができる。これはあなたの方の誰の品位をも下げものではなく、むしろ神の是認を気づかせてくれる。それは、あなたに委ねられたタラントを賢く増やすために両替人に預けることになるのである。このタラントを活用することによって、増やしていくのである。……

神が青年に与えておられる筋肉と頭脳を用いることにおいて、善を行なうように求め続けることは常にわたしたちの義務である。それによって、彼らは他の人々にとって有益な者となり、その人々の骨折り仕事を軽くし、悲しんでいる人に慰めをもたらし、失望している人の気分を高め、希望を失っている人に慰めの言葉を語り、成人男女の尊厳を越えた恥と不名誉へと生徒を連れ込む娯楽や浮かれ騒ぎから彼らの思いを変えさせることができる。主は気高い思いの者、より高くより高貴で有用な器になろうと努めている者を持ちたいと願っておられる。(ノットブック・リフレット NO,30 p2)

真の人は他の人々の益のために自分自身の関心事を喜んで犠牲にする人、また心のいためる者をいやす訓練をする人である。(ビュー・アンド・ヘルド 1880年1月8日)

善を行うための力はすべて神が与えて下さったものである。……人間の知恵や良い行いに対する栄光はすべて神に属する。(エレン・G・ホワイト原稿 146、1902年)

愛情と親切心は尊いタラント

「兄弟の愛をもって互にいつくしみ、進んで互に尊敬し合いなさい。」(ローマ 12:10)

親切心、情け深い心、靈的理解のすみやかなことなどは、尊いタラントである。こうしたタラントの持ち主には、重い責任が負わされている。これは、みな神のご用のために用いなければならない。ところが、ここであやまっている者が多い。彼らは、そのような特質を持っていることに満足し、それを他の人びとのために活発に働かせようとしない。……大きな愛の心を持っている者は、単に友人ばかりでなくて、助けを必要とするすべての者を愛する義務が負わせられている。社会的に有利な地位もまたタラントであるから、それをわたしたちの感化の及ぶ限りの人々の幸福のために用いなければならない。……

タラントは、活用すれば、増加する。成功は、偶然や幸運の結果ではない。それは、神ご自身の摂理の結果で、信仰と思慮深さ、徳と不撓(ふとう)不屈の努力の結果である。神は、わたしたちが、すべてのたまものを活用することを望んでおられる。そして、今持っているたまものを活用すれば、さらに大きなたまものをを用いるようになる。神は、わたしたちに欠けている特質を超自然的にお与えになったりしない。しかし、わたしたちが、持っているものを活用するとき、神はわたしたちと共に働いて、すべての能力を増し強化してくださる。主の奉仕のために全心をこめて熱心に犠牲を払うならば、そのたびにわたしたちの能力は増すのである。……わたしたちが、聖霊のささやきに耳を傾けて従うならば、わたしたちの心は拡大され、ますます神の力を受け、さらに、よい働きをすることができるのである。眠っていた精力は呼びさまされ、まひしていた機能も新しい生命を受けるのである。……

人々をキリストに導こうとして、彼らのために祈りをささげるときに、わたしたち自身の心が神の恵みの生きた感化によって脈打つのである。わたしたち自身の愛の心が、神からの熱を受けて、もっと燃えるようになり、わたしたちのクリスチャン生活はもっと現実で、もっと熱心で、祈りに満ちたものとなることであろう。(キリストの実物教訓 328-331)

強くまた雄々しくあれ

「ただ強く、また雄々しくあって、わたしのしもべモーセがあなたに命じた律法をことごとく守って行き、これを離れて右にも左にも曲ってはならない。それはすべてあなたが行くところで、勝利を得るためである。」(ヨシュア 1:7)

ヨセフやダニエルとその友人たちの歴史の中に、真理という金の鎖が青年をどのように神の御座に結びつけることができるかが見られる。彼らは高潔という彼らの進路からはずれようとする気持ちにはさせられなかった。彼らは君主の好意や賞賛よりも神の是認をはるかに尊重したので、神は彼らを愛し、ご自分の盾で彼らをおおわれた。彼らの信仰深い高潔さのゆえに、いかなる人間の権力にもまさって神をあがめようと決心したゆえに、主は人々の前で彼らに目立つ方法で栄誉を授けられた。彼らは、万軍の主なる神、そのみ力が上は天にあるもの、下は地にあるみ手のすべてのわざを支配しておられるお方によって栄誉を授けられた。この青年たちは自分たちの真の色を示すことを恥かしいとは思わなかった。王の宮廷においてすら、言葉にも習慣や実践においても彼らは天におられる主なる神を信じる信仰を告白した。彼らは、神の名誉を損なういかなる地上の、人間が造った物をも拝むことを拒んだ。彼らは神への忠誠を告白するために天から力を得た。……

あなたの色を恥かしいと思ってはならない。それを身につけ、人々とみ使いたちに見えるよう広げなさい。……世はすべての知的な人間に期待することのできるそのものを知る権利がある。堅く決心した正しい原則そのものを生きている人は、彼と交わる人々にとって生きた力であり、他の人々に自分のキリスト教信仰の感化を及ぼす。善か悪に対するお互いの感化がどれほど大きいものであるかを多くの人は認識しておらず、気づいてもない。……

現世と来世におけるあなたの幸福、永遠の命はあなた自身にかかっている。……自分が魂をどこに導いているかを、すべての人が熟考することはどれほど大切であろうか。わたしたちは、永遠の世界のことを考えているのであれば、自分の感化の代価についてどれほど勤勉に考慮するべきであろうか。(ユース・インストラクター 1893年2月2日)

信者仲間の模範となる

「あなたは……言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範になりなさい。」(テモテ第一 4:12)

わたしたちが接触するすべての人は、わたしたちを取りまいてそのふんいきによって、意識的あるいは無意識のうちに影響される。……わたしたちのことば、行為、服装、態度、また顔の表情さえ影響力を持っている。……このような刺激が与えられる時、それはまかれた種子となって収穫を生じる。それはどこまで延びるかわからない人間世界の出来事という長い鎖の環である。もしわたしたちが自分の模範によって他人の中に立派な主義が発達するのを助けるなら、わたしたちは彼らに善をなす力を与えたことになる。そしてこんどは彼らが同じ影響を他人に及ぼし、その人からまた他の人へと影響が伝わって行く。こうして、わたしたちの無意識の感化が幾千の人々にとって祝福となる場合がある。

池に小石を投げこむと波が立つ。するとそれは次々に波紋を起し、ふえるにしたがってその波紋はひろがり、ついには岸にまで達する。わたしたちの感化もそのようなものである。知らないうちにまたどうすることもできないうちに、それは祝福か、さもなければ災となって他人に影響する。……

感化の及ぶ範囲が広がれば広いほど、ますます善をなすことができる。神に仕えたと告白している人々がキリストの模範に従い、日ごとの生活に律法の原則を実行する時、そしてまた一つ一つの行為が神を最も愛し、自分を愛するように隣人を愛することをあかしているとき、その時こそ教会は世を動かす力を持つことができる。(青年への使命 419、420)

もしも若い人たちが純潔な品行と堅固な原則を保ちつつ、自分が高尚な者となるなら、またこれに真のクリスチャンの礼儀と思いやりを混ぜあわせるなら、どこにいても、そのやり方を自分のものとする品性の持ち主には精錬された完全があり、力強い影響力が美德と節制また正義を選ぶように働く。そのような品性の持ち主は社会にとって最高に価値があり、金よりも尊い。彼らの影響力は現世と来世に及ぶ。(パソフィック・ハルス・ファナル 1890年6月)

同胞と未信者を救う感化

「こうして、マケドニアとアカヤとにいる信者全体の模範になった。すなわち、主の言葉はあなたがたから出て、ただマケドニアとアカヤとに響きわたっているばかりではなく、至るところで、神に対するあなたがたの信仰のことが言いひろめられたので、これについては何も述べる必要はないほどである。」(テサロニケ第一 1:7,8)

あなたが一人の魂の上に救う感化を及ぼすことができるなら、悔い改めたその人の上に天で喜びがあることを覚えていなさい。……あなたは思慮深い努力によってその失われた羊をイエスのおりに連れ戻す手段となることができる。あなたは若いかもしれないが、キリストと共に働かなければならない。キリストの精神を自分の心に入れて、あなたは今することが可能に思えるよりもはるかに多くのことをすることができる。(ユス・インストラクター 1886年5月4日)

もしあなたの模範がキリストのようであるなら、一言も言わなくても、その模範だけで多くの人の助けとなる。善を行うことを忍耐深く続けると、他の人がその足を真理と正義の道におくのを助ける。……注意深く正しい一步を踏み出し、静かに歩み続けなさい。(同上 8月25日)

あなたが良い原則を遂行していくなかで持つことのできる堅固な目的は、正しい方向に魂のバランスをとる影響力を持つ。あなたが行うことのできる善に制限はない。あなたが神の御言に自分の人生を支配していただき、その教訓によってあなたの行動を治めていただくなら、義務を成し遂げるにあたってのあなたの目的と努力を祝福しつつ、成功があなたの努力を飾る。(同上 9月1日)

神に捧げられた青年は善への力強い感化を及ぼす。年上の牧師や信徒は、神に自分を捧げた青年がその仲間にも及ぼすことのできる良い感化の半分も感化を及ぼすことはできない。(同上 1907年1月1日)

真実で利己心のない敬虔な生活という無言のあかしは、何もかも抵抗できない感化を及ぼす。(青年への使命 420)

きよい生活の、気取らない無意識の感化は、キリスト教のために与えることのできる最も説得力のある説教である。(患難から栄光へ下巻 209)

柔和でしとやかな霊を持つ人の感化

「あなたがたは、髪を編み、金の飾りをつけ、服装をととのえるような外面の飾りではなく、かくれた内なる人、柔和で、しとやかな霊という朽ちることのない飾りを、身につけるべきである。これこそ、神のみまえに、きわめて尊いものである。」(ペテロ第一 3:3,4)

使徒は外観と対比した内面の飾りを示し、神が何に重きを置いておられるかを語っている。外観は朽ちるが、柔和でしとやかな霊という、美しく均整のとれた品性の発達は衰えることがない。それは滅びることのない飾りである。価値があつて心ひかれる美しいすべての物の創造主の御目に、それは大いなる価値があると説明されている。(健康改革者 11、1871年)

高価な衣服や真珠あるいは金よりもっと価値があると神が評価されるものを得ようと、わたしたちは熱心に努力しないのだろうか。内なる飾り、柔和という恵み、天使と調和する精神は品性の真の威厳を損なったり、この世においてわたしたちの品性の麗しさを減じるようなことはない。賤い主はわたしたちに持ち物の誇りについては警告しておられるが、その上品さや本来備わった美しさについては何も警告してはおられない。(ユース・インストラクター 1897年 5月6日)

服装における克己はクリスチャンの義務の一つである。簡素な服装をし、あらゆる種類の宝石や飾りを見せびらかすことを避けるのはわたしたちの信仰と一致する。(教会への証 3巻 366)

宇宙の王が大いなる価値があると評価されるものを、わたしたちが培っていることを教えと模範によって示すことが最も大切なことである。これを行うことによってわたしたちは善のためにどれほどの感化力を持つことができることか。(健康改革者 11、1871年)

外面的な見せびらかしや気取った方法で自分自身を魅力的に見せようと、時間と金銭を費やす子供たちや青年は、正しい方向で努力していない。彼らは真のクリスチャンらしい礼儀正しさや魂の気高さを養う必要がある。……表情にあらわれた心の美しさや魂の純潔は、どのような外面的な飾りよりも人の心に感化を及ぼし、魅了する力を持つ。(ユース・インストラクター 1873年 9月)

クリスチャン家族の感化

「わたしは彼が後の子らと家族とに命じて主の道を守らせ、正義と公道とを行わせるために彼を知ったのである。」(創世記 18:19)

あらゆるクリスチャン家族は世にクリスチャンの感化力とそのすばらしさを例証すべきである。(レビュー・アンド・ヘルド 1900年10月9日)

家族が親切で礼儀正しいクリスチャンである家庭は善のために広範にわたる感化を及ぼす。他の家族はそのような家庭が到達した結果に注目し、悪い感化から自分の家庭を守ろうとして示された模範に従う。神のみ使いたちは、神のみ旨が影響力を持つ家庭をたびたび訪問する。神の恵みの力のもとに、そのような家庭は疲れきった旅人を元気づける場所となる。自己は主張されず、正しい習慣が形造られ、他の人の権利を注意深く認める。愛によって働き魂を清める信仰が家族全体を統轄しながら舵を取る。(サインズ・オブ・タイムズ 1904年2月17日)

秩序のある、よくしつけられた家族は、説教壇のすべての説教にまぎって、キリスト教のために証をする。(レビュー・アンド・ヘルド 1899年6月6日)

ともしびはどんなに小さくても、つねに燃えてさえいれば、他の多くのともしびに火を点ずるものとなれる。わたしたちの感化する範囲が狭く、その力も小さく、与えられる機会が少なく、学識がなくても自分の家庭に与えられた機会を忠実に利用するならば驚くほどの働きができる。もしその心と家庭を開いて神の生活法式を受け入れるならば、わたしたちは生命を与える力への水路となるであろう。わたしたちの家庭から人々をいやす川が流れ出て、荒れはてた不毛の地に生命と美と収穫をもたらすのである。(ミニストリー・オブ・ヒーリング 328)

子供時代にまた青年期に注意深く守られたクリスチャン家庭の感化は、世の墮落に対する最も安全な予防手段となる。(エレン・G・ホワイトの原稿 1903年126)

研究 4

七つの封印と生ける神の印



贖いの物語

先月まで、わたしたちは神の契約の条件は神の律法であり、神との関係を表すことを見てきました。また契約を破る者にはのろいがあるにもかかわらず、契約を破ったわたしたちに代ってキリストがこれを受け、わたしたちの罪のために「のろい」となられました。それは、キリストの受けられるべき取り扱いをわたしたちが受けられるため、すなわちのろいに替えて、「キリストの義」によってわたしたちが義とされるためでした。そして、その契約を立案されたばかりでなく、実現するために、神がすべてをなされたこと—神が契約を立て、ご自分のひとり子の血をもって印を押し、さらにこのお方が担保となって下さったのでした。

ですから、わたしたちの希望はこの契約に基づいています。

信仰による義認—これがわたしたちのメッセージ

イエスは、ご自分がすべてを引き受けられたうえで、もう一度、ご自分が救うために来られた人々に機会が与えられるように、御父に嘆願してくださいました。

「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」(ルカ 23:34)。

この嘆願は、キリストの血に基づいており、神の契約に基づいています。ですから、その結果与えられる許しも神の許しです。

「神の許しは、罪の宣告からわたしたちを解放する法的行為であるばかりではない。それは罪の許しであるだけでなく、わたしたちを罪から救うことである。心を変えるものは、あふれる贖罪的愛である」(祝福の山 143)。

「わたしたちは、信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている」(ローマ 5:1)。

「神の和解を受けなさい」(コリント第二 5:20)。

「それでは、これらの事について、なんと言おうか。もし、神がわたしたちの味方であるなら、だれがわたしたちに敵し得ようか。ご自身の御子をさえ惜しまないで、わたしたちすべての者のために死に渡されたかたが、どうして、御子のみならず万物をも賜わらないことがあろうか。だれが、神の選ばれた者たちを訴えるのか。神は彼らを義とされるのである。だれが、わたしたちを罪に定めるのか。キリスト・イエスは、死んで、否、よみがえって、神の右に座し、また、わたしたちのためにとりなして下さるのである」(ローマ 8:31-34)。

この完全な許し、完全な平和、完全な義、そしてそれらに対する完全な確信は、キリストによります。

では、このキリストの血によって批准された契約の成し遂げる贖いが、どのような内容であるのか、詳しく見ていきましょう。

イスラエルの人々がエジプトから救出され、神と契約を結んで神の民となった時に、どのようにして贖いがなされるべきかを教えてくださいました。レビ記に次のように記されています。

「彼らはエジプトの国からわたしが導き出したわたしのしもべであるから、身を売って奴隷となってはならない」(レビ記 25:42)。

「地は永代には売ってはならない。地はわたしのものだからである。あなたがたはわたしと共にいる寄留者、また旅びとである」(レビ記 25:23)。

そして、この定めの実例が記されているのがルツ記です。そこには、人の贖いの過程(レビ記 25:42)と証人たちの前での嗣業(レビ記 25:23)について、記されています。では、ルツ記 4:1-11 を見てみましょう。

ルツ記—贖いの物語:

「ボアズは町の門のところへ上って行って、そこにすわった。すると、さきにボ

アズが言った親戚の人が通り過ぎようとしたので、ボアズはその人に言った、『友よ、こちらへきて、ここにおすわりください』。彼はきてすわった。ボアズはまた町の長老十人を招いて言った、「ここにおすわりください」。彼らがすわった時、ボアズは親戚の人に言った、『モアブの地から帰ってきたナオミは、われわれの親族エリメレクの地所を売ろうとしています。それでわたしはそのことをあなたに知らせて、ここにすわっている人々と、民の長老たちの前で、それを買いなさいと、あなたに言おうと思いました。もし、あなたが、それをあがなおうと思われるならば、あがなってください。しかし、あなたがそれをあがなわないならば、わたしにそう言って知らせてください。それをあがなう人は、あなたのほかにはなく、わたしはあなたの次ですから』。彼は言った、『わたしがあがなひましよう』。そこでボアズは言った、『あなたがナオミの手からその地所を買う時には、死んだ者の妻であったモアブの女ルツをも買って、死んだ者の名を起してその嗣業を伝えなければなりません』。その親戚の人は言った、『それでは、わたしにはあがなうことができません。そんなことをすれば自分の嗣業をそこないます。あなたがわたしに代って、自分であがなってください。わたしはあがなうことができませんから』。むかしイスラエルでは、物をあがなう事と、権利の譲渡について、万事を決定する時のならわしはこうであった。すなわち、その人は、自分のくつを脱いで、相手の人に渡した。これがイスラエルでの証明の方法であった。そこで親戚の人がボアズにむかい「あなたが自分であがなひなさい」と言って、そのくつを脱いだので、ボアズは長老たちとすべての民に言った、「あなたがたは、きょう、わたしがエリメレクのすべての物およびキリオンとマロンのすべての物をナオミの手から買いとった事の証人です。またわたしはマロンの妻であったモアブの女ルツをも買って、わたしの妻としました。これはあの死んだ者の名を起してその嗣業を伝え、死んだ者の名がその一族から、またその郷里の門から断絶しないようにするためです。きょうあなたがたは、その証人です」。すると門にいたすべての民と長老たちは言った、「わたしたちは証人です。どうぞ、主があなたの家にはいる女を、イスラエルの家をたてたラケルとレアのふたりにようにされますよう。どうぞ、あなたがエフラタで富を得、ベツレヘムで名を揚げられますように」(ルツ4:1-11)。

この中でボアズはキリストを象徴しています。

「イスラエルに与えられた律法の中に、キリストとその民との関係について、美

しい例がある。ヘブル人が、貧乏のために世襲財産を手離し、身を奴隷として売らねばならないときには、彼とその相続財産とをあがなう義務は一番近い親族の上に負わされた(レビ記 25:25, 47-49、ルツ記 2:20 参照)。同じように、われわれと、罪によって失われたわれわれの嗣業をあがなう義務が、われわれにとって近親にあたるキリストに負わされた。キリストがわれわれの近親になられたのは、われわれをあがなうためであった。われわれの主なる救い主は、父母、兄弟、友人あるいは愛人よりも近いのである。……」(各時代の希望中巻 46)

「人類のあがないのために無限の値が支払われた」(患難から栄光へ下巻 191)。

「天の法廷で、キリストは教会のために弁護しておられる。すなわち、キリストが血のあがないの値を支払われた人々のために弁護しておられるのである。どんなに世紀や時代を重ねても、キリストのあがないの犠牲は効力を減じない。……キリスト・イエスにおける神の愛からわれわれを引き離すことはできない。それはわれわれがしっかりとキリストをつかんでいるからではなく、キリストがわれわれをしっかりとつかんでいるからである。もし救いがわれわれ自身の努力にかかっているとすれば、われわれは救われることができない。しかし救いは、すべての約束を支持しておられる方にかかっているのである。キリストをとらえるわれわれの力は弱いように見えるかもしれないが、キリストの愛は兄の愛のようで、主と結ばれているかぎり、だれも主のみ手からわれわれを引き離すことはできない」(患難から栄光へ下巻 256)。

このように、贖いのための計画が実行されるためには、贖う権利を持つ者が、証人たちの前で、契約を結び、贖いの代価を支払うという過程を必要とします。こうして、完全に契約の条件が果たされたとき、すなわち、契約の条件が守られ、神との関係が回復されるとき、失われていた嗣業は買い戻され、異邦人であったルツはキリストの家系に入ったのでした。この契約の確かさと効力はキリストにあります。

二人の異教の女…イザヤ 56 章 (: エペソ 2:11

ユダヤ人は、アブラハムの子孫であることが約束の条件であると思いましたが、

はじめから見ましたように、契約の条件は神の律法であり、その条件に従う者が契約より、神との関係に入ります。

そのことについて預言者イザヤは次のように預言しています。

「主に連なり、主に仕え、主の名を愛し、そのしもべとなり、すべて安息日を守って、これを汚さず、わが契約を堅く守る異邦人は一わたしはこれをわが聖なる山にこさせ、わが祈の家のうちで楽しませる。……「主なる神はこう言われる、「わたしはさらに人を集めて、すでに集められた者に加えよう」と」（イザヤ 56 章）

また、その実現が、エペソ 2 章にしるされています。

「あなたがたは以前には、肉によれば異邦人であって、……またその当時は、キリストを知らず、イスラエルの国籍がなく、約束されたいろいろの契約に縁がなく、この世の中で希望もなく神もない者であった。ところが、あなたがたは、このように以前は遠く離れていたが、今ではキリスト・イエスにあって、キリストの血によって近いものとなったのである」（エペソ 2:11-13）。

しかし、その条件は旧約時代から同じであり、その実例をマタイ書に見ることができます。

「サルモンはラハブによるボアズの父、ボアズはルツによるオベデの父」（マタイ 1:5）。

ラハブはイスラエルがカナンの地に入るときに、神を捨てたエリコの町の住民としてではなく、イスラエルの神を畏れる者としての人生を選びました。ルツと同じ選択により、キリストの家系に入ったのです。

「しかしルツは言った、…あなたの民はわたしの民、あなたの神はわたしの神です」（ルツ 1:16）。

この選択をする者に差別はありません。なぜなら、神はすべての人をキリストの血によって贖われたからです。

「あなたがたの神、主は上の天にも、下の地にも、神でいらせられる」（ヨシュア 2:11）。ですから、ルツのように望む者はだれでも、神との契約関係に入ることができます。

来月は、この贖いの契約と封印の関係を見ていきます。

しの目が今あなたの救を見たのですから。この救はあなたが万民のまえにお備えになったもので、異邦人（いほうじん）を照す啓示（けいじ）の光、み民イスラエルの栄光であります」（ルカ 2:29-32）。

女預言者のアンナも「ちょうどそのとき近寄ってきて、神に感謝をささげ、そしてこの幼な子のことを、エルサレムの救を待ち望んでいるすべての人々に語りかさせた」（ルカ 2:38）。

このように、神は謙遜（けんそん）な人々を彼の証人（しょうにん）としてお選びになります。しばしば世が偉人（いじん）と呼ぶ人々はとおりすぎてしまわれます。多くの人々がユダヤ人の祭司や役人たちのようです。

多くの人々は、自分自身に仕（つか）え、ほまれを帰（き）すことには熱心ですが、神に仕え、ほまれを帰すことはほとんど考えていません。そのために、神はご自分の愛と憐（あわ）れみを他の人々に告げるために彼らをお選びになることができないのです。

イエスの母マリヤは、シメオンの遠大な預言（よげん）を深く考えていました。彼女は自分のうでの中の子供を見て、ベツレヘムの羊飼いが彼女に語ったことを思いだし、すばらしい喜びと明るい希望に満たされました。

シメオンの言葉に、彼女は預言者イザヤの言葉を思いだしました。彼女はこれらのすばらしい言葉がイエスさまについて語られたものであることを知っていました。

「暗やみの中に歩んでいた民は大いなる光を見た。暗黒の地に住んでいた人々の上に光が照った。」「ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。まつりごとはその肩にあり、その名は、「靈妙（れいみょう）なる議士（ぎし）、大能（たいのう）の神、とこしえの父、平和の君」ととなえられる。」（イザヤ 9:2, 6）

じゃがいもとにんじんのおかゆ

〔材料〕

じゃがいも	2 個
にんじん	1/2 本
米	1 カップ
にんにく	1/2 片
水	7 カップ
塩	小さじ 1
ごま油	少々

〔作り方〕

1. お鍋にごま油を入れて、お米を炒めます。
2. じゃがいも、にんじん、にんにくを足して一混ぜしたら、お水を入れます。
3. 焦げないようにまぜながら、30 分～40 分とろっとするまで煮ます。

ひと味ちがったおかゆはいかがでしょうか。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。



書籍

【永遠の真理】 聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】 は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



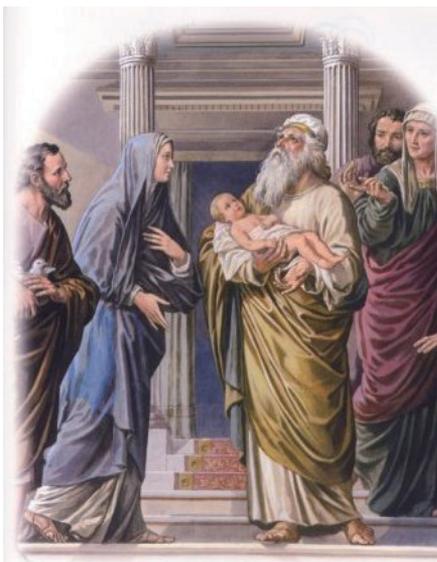
イエスの物語

第4話 宮で捧げられるイエスさま(下)

ヨセフとマリヤは律法の要求どおりに、イエスさまを祭司(さいし)のもとへ連れて行きました。毎日、父親と母親が自分たちの子どもを連れてきていましたから、祭司はヨセフとマリヤに他の人たちと何の違いもみとめませんでした。彼らは労働者にすぎませんでした。

イエスさまのうちに、彼はただ無力な幼子のみとめただけでした。この祭司は、自分が腕の中に世の救い主、すなわち天の宮の大祭司をいただいているとは、つゆほどにも思いませんでした。しかし、彼は知ることができたはずでした。なぜなら、もし彼が神さまのみ言葉に従順であったならば、主は彼にこれらのことを教えてくださったはずだからです。

ちょうどこのとき、宮には二人の神さまの真のしもべたち、シメオンとアンナがいました。二人とも主に仕えて年をとっていました。そして神は高慢(こうまん)で利己的(りこてき)な祭司たちには知らせることがおできにならなかったことがらを、彼らには示すことがおできになりました。



シメオンには救い主を見るまで死ぬことはないという約束が与えられていました。宮でイエスを見たとき、彼にはこれが約束されたお方であることがわかりました。

イエスのお顔にはやわらかい天来(てんらい)の光がありました。そして、シメオンはその子どもを自分のうでにいだき、神をたたえて言いました、

「主よ、今こそ、あなたはみ言葉のとおりこの僕を安らかに去らせてくださいます、わた